

平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成30年11月2日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2112 URL <http://www.ensuiko.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 裕司
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理グループ長 (氏名) 小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月2日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日~平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	13,048	△2.8	639	73.8	694	9.5	481	△5.6
30年3月期第2四半期	13,421	△1.4	367	△27.5	634	△0.8	509	8.0

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 540百万円(15.7%) 30年3月期第2四半期 466百万円(△1.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	17.76	—
30年3月期第2四半期	18.81	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	24,830	8,711	35.1
30年3月期	24,948	8,306	33.3

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 8,711百万円 30年3月期 8,306百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日~平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	△3.3	760	△9.6	920	△22.8	670	△26.1	24.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	35,000,000株	30年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	7,890,649株	30年3月期	7,890,645株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	27,109,353株	30年3月期2Q	27,109,396株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な世界経済に加えて企業収益や雇用環境が着実に改善するなど、全体として緩やかな回復基調で推移いたしました。今後は、政府の各種経済政策の効果により設備投資や個人消費の更なる持ち直しが期待できる一方、通商問題の動向に伴う世界経済への影響や、相次ぐ自然災害の経済に与える影響等、景気の先行きには不透明感が存在しております。

このような状況の中、当社グループはお客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」を目標に、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、経営成績は以下のとおりとなりました。

①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において12.33セントで始まり、主要生産国インドでの砂糖生産量の増加観測等により11セント割れまで下落した後、主要生産国ブラジルにおける乾燥気候の長期化による産糖量の停滞観測等により相場は上昇傾向となり、6月初旬には12.97セントの高値を付けました。その後、ブラジル通貨レアルの下落の影響を受け、8月下旬には10年ぶりの10セント割れとなり、インド政府による余剰在庫輸出奨励策の承認とも相まって9月下旬に9.83セントの安値まで下落した後、10.42セントで当期を終了しました。このような相場動向のもとで、当社では適切な原料糖の調達に努めてまいりました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり）は、期初189円～190円で始まりましたが、粗糖先物相場下落を受けて7月中旬に187円～188円に値を下げ、同水準のまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類などの国内販売は、業務用製品は大手ユーザーを中心として堅調に実績を確保しましたが、家庭用製品は、天候不順や自然災害等の影響により伸び悩み、売上高は前年を下回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は12,103百万円（前年同期比3.0%減）、セグメント利益は1,015百万円（前年同期比30.0%増）となりました。

②バイオ事業

オリゴ糖部門は、腸内環境改善効果を有する特定保健用食品「オリゴのおかげ」シリーズの拡販に向けて、主力量販店を中心とした販売促進活動に注力すると共に、売り場における他商品とのコラボ試食販売等の施策を継続実施いたしました。また、認知度向上を目指し、各種メディアを通じた一般消費者への訴求活動及び当社公式ウェブサイトにおける内容の充実化を図りました。その結果、オリゴ糖部門全体では販売数量及び売上高とも前年同期を上回りました。

サイクロデキストリン部門は、食品及び非食品において新規の用途及び素材の開発と営業力の強化を通じた拡販に努めましたが、売上高は前年を下回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は922百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益は158百万円（前年同期比18.6%増）となりました。

③その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用にも努めました結果、売上高は66百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント利益は32百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

以上の結果、当期の売上高は13,048百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は639百万円（前年同期比73.8%増）、経常利益は694百万円（前年同期比9.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は481百万円（前年同期比5.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて118百万円減少し、24,830百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が215百万円減少した一方で、商品及び製品が126百万円増加したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて523百万円減少し、16,119百万円となりました。これは主に、短期借入金が200百万円増加した一方で、長期借入金が740百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて404百万円増加し、8,711百万円となりました。これは主に、利益剰余金345百万円増加、その他有価証券評価差額金が57百万円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比べて104百万円減少し、1,679百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、873百万円(前年同四半期は743百万円の収入)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益694百万円、減価償却費332百万円等による資金の増加があった一方で、法人税等の支払額167百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、284百万円(前年同四半期は363百万円の資金支出)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出299百万円、無形固定資産の取得による支出5百万円等による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、695百万円(前年同四半期は246百万円の資金支出)となりました。

これは、配当金の支払135百万円、借入による純減少560百万円による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成30年5月11日公表の業績予想からの変更はありません。今後、何らかの変化が生じた場合、適時適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,784	1,679
受取手形及び売掛金	2,035	1,820
商品及び製品	1,084	1,210
仕掛品	271	193
原材料及び貯蔵品	713	913
その他	1,043	1,137
流動資産合計	6,932	6,954
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,975	10,008
減価償却累計額	△6,393	△6,525
建物及び構築物(純額)	3,582	3,482
機械装置及び運搬具	11,283	11,340
減価償却累計額	△9,480	△9,614
機械装置及び運搬具(純額)	1,803	1,726
工具、器具及び備品	460	464
減価償却累計額	△387	△395
工具、器具及び備品(純額)	72	68
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	23	43
有形固定資産合計	10,715	10,555
無形固定資産		
ソフトウェア	124	113
その他	6	6
無形固定資産合計	130	119
投資その他の資産		
投資有価証券	5,107	5,206
長期貸付金	1,224	1,191
繰延税金資産	753	723
その他	84	79
投資その他の資産合計	7,170	7,200
固定資産合計	18,016	17,875
資産合計	24,948	24,830

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	689	773
短期借入金	5,000	5,200
1年内返済予定の長期借入金	1,588	1,568
未払法人税等	177	209
未払消費税等	176	210
賞与引当金	78	79
その他	1,061	991
流動負債合計	8,772	9,033
固定負債		
長期借入金	6,820	6,080
退職給付に係る負債	716	670
繰延税金負債	8	18
その他	324	316
固定負債合計	7,869	7,085
負債合計	16,642	16,119
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	9,687	10,032
自己株式	△3,021	△3,021
株主資本合計	8,657	9,002
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△361	△304
繰延ヘッジ損益	△4	△3
退職給付に係る調整累計額	15	16
その他の包括利益累計額合計	△350	△291
純資産合計	8,306	8,711
負債純資産合計	24,948	24,830

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	13,421	13,048
売上原価	11,064	10,473
売上総利益	2,357	2,575
販売費及び一般管理費	1,989	1,936
営業利益	367	639
営業外収益		
受取利息	13	13
受取配当金	60	59
持分法による投資利益	245	30
その他	7	4
営業外収益合計	327	107
営業外費用		
支払利息	50	48
支払手数料	3	2
その他	6	1
営業外費用合計	60	52
経常利益	634	694
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
投資有価証券売却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	635	694
法人税、住民税及び事業税	114	198
法人税等調整額	10	14
法人税等合計	125	212
四半期純利益	509	481
親会社株主に帰属する四半期純利益	509	481

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	509	481
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△51	56
繰延ヘッジ損益	1	0
退職給付に係る調整額	4	0
持分法適用会社に対する持分相当額	2	1
その他の包括利益合計	△42	58
四半期包括利益	466	540
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	466	540

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	635	694
減価償却費	327	332
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△53	△44
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2	1
受取利息及び受取配当金	△73	△72
支払利息	50	48
為替差損益(△は益)	△0	△2
持分法による投資損益(△は益)	△245	△30
投資有価証券売却損益(△は益)	△1	—
売上債権の増減額(△は増加)	△233	215
たな卸資産の増減額(△は増加)	265	△248
仕入債務の増減額(△は減少)	△279	83
その他	351	39
小計	739	1,016
利息及び配当金の受取額	74	73
利息の支払額	△50	△48
法人税等の支払額	△46	△167
法人税等の還付額	26	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	743	873
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△303	△299
無形固定資産の取得による支出	△36	△5
投資有価証券の売却による収入	3	—
貸付けによる支出	△380	△410
貸付金の回収による収入	352	431
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363	△284
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	820	200
長期借入金の返済による支出	△931	△760
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△135	△135
財務活動によるキャッシュ・フロー	△246	△695
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	133	△104
現金及び現金同等物の期首残高	1,108	1,784
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,241	1,679

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,467	898	55	13,421	—	13,421
セグメント間の内部売上高又は振替高	9	21	9	40	△40	—
計	12,477	919	65	13,462	△40	13,421
セグメント利益	781	133	32	947	△579	367

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,091	900	57	13,048	—	13,048
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	22	9	43	△43	—
計	12,103	922	66	13,092	△43	13,048
セグメント利益	1,015	158	32	1,206	△567	639

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。